

届出年月日 通商手続	整理番号	事務所区分	企業番号	申告区分
---------------	------	-------	------	------

受付印 (あて先) 年 月 日 法人番号 申告年月日

岐阜県笠松町長

所在地 〒 (電話)

この申告の基礎

1. 出資者の修正内資率の修正による。
2. 出資者の修正、決定、再変更による。

事業種目

期末現在の資本金の額又は出資金の額 兆 十億 百万 千 円

期末現在の資本金の額及び資本準備金の額の合算額

期末現在の資本金等の額

代表者氏名 経理責任者氏名

年 月 日から 年 月 日までの 事業年度分又は連結事業年度分の市町村民税の 申告書

摘要	課税標準	税額(円)	
		法人税割額	均等割額
(使途秘匿金税額等) 法人税法の規定によって計算した法人税額 ①			
試験研究費の額等に係る法人税額の特別控除額 ②			
還付法人税額等の控除額 ③			
退職年金等積立金に係る法人税額 ④			
課税標準となる法人税額又は個別帰属法人税額及びその法人税割額 ①+②-③+④ ⑤	000		
2以上の市町村に事務所又は事業所を有する法人における課税標準となる法人税額又は個別帰属法人税額及びその法人税割額 $\frac{⑤}{23} \times 23$ ⑥	000		
市町村民税の特定寄附金税額控除額 ⑦			
外国関係会社等に係る控除対象所得税額等相当額又は個別控除対象所得税額等相当額の控除額 ⑧			
外国の法人税等の額の控除額 ⑨			
仮装経理に基づく法人税割額の控除額 ⑩			
差引法人税割額 ⑤-⑦-⑧-⑨-⑩又は⑥-⑦-⑧-⑨-⑩ ⑪			00
既に納付の確定した当期分の法人税割額 ⑫			00
租税条約の実施に係る法人税割額の控除額 ⑬			
この申告により納付すべき法人税割額 ⑪-⑫-⑬ ⑭			00
均等割額			
算定期間中において事務所等を有していた月数 ⑮	月	円 × $\frac{⑮}{12}$	00
既に納付の確定した当期分の均等割額 ⑯			00
この申告により納付すべき均等割額 ⑭-⑯ ⑰			00
この申告により納付すべき市町村民税額 ⑭+⑰ ⑱			00
⑱のうち見込納付額 ⑲			
差引 ⑲-⑳ ㉑			

当該市町村内に所在する事務所、事業所又は寮等		分割基準		当該市町村分の均等割の税率適用区分に用いる従業員数
名称	事務所、事業所又は寮等の所在地	当該法人の従業員数	そのうち当該市町村分の従業員数	人
合計		人	人	人

指定都市に申告する	区名	月数	従業員数	均等割額	決算確定の日	年 月 日	法人税の申告書の種類	青色・その他
					解散の日 <td>年 月 日 <td></td> <td></td> </td>	年 月 日 <td></td> <td></td>		
					法人税の申告書の種類 <td></td> <td></td>			
					配当又は引当の日 <td>年 月 日 <td>翌期の中間申告書の要否 <td>要・否</td> </td></td>	年 月 日 <td>翌期の中間申告書の要否 <td>要・否</td> </td>	翌期の中間申告書の要否 <td>要・否</td>	要・否
					法人税の申告書の種類 <td></td> <td></td> <td></td>			
					この申告書の計算期間 <td>年 月 日から 年 月 日まで <td>法人税の申告期限の延長の処分の有無 <td>有・無</td> </td></td>	年 月 日から 年 月 日まで <td>法人税の申告期限の延長の処分の有無 <td>有・無</td> </td>	法人税の申告期限の延長の処分の有無 <td>有・無</td>	有・無
					選付を受けようとする金融機関及び支私方法	銀行 支店		
					口座番号 (普通・当座)			
					還付請求税額	十億 百万 千 円		
					法第15条の4の徴収猶予を受けようとする税額			

関与税理士 署名 (電話)

必ず横記入願います